

四半期報告書

(第21期第1四半期)

自 平成29年4月1日
至 平成29年6月30日

オイシックスドット大地株式会社

(旧会社名 オイシックス株式会社)

東京都品川区東五反田一丁目13番12号

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報	1
第1 企業の概況	1
1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	1
第2 事業の状況	2
1 事業等のリスク	2
2 経営上の重要な契約等	2
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	2
第3 提出会社の状況	5
1 株式等の状況	5
(1) 株式の総数等	5
(2) 新株予約権等の状況	5
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	5
(4) ライツプランの内容	5
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	5
(6) 大株主の状況	5
(7) 議決権の状況	6
2 役員の状況	6
第4 経理の状況	7
1 四半期連結財務諸表	8
(1) 四半期連結貸借対照表	8
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	9
四半期連結包括利益計算書	10
2 その他	14
第二部 提出会社の保証会社等の情報	15

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年8月14日
【四半期会計期間】	第21期第1四半期（自平成29年4月1日至平成29年6月30日）
【会社名】	オイシックスドット大地株式会社 （旧会社名 オイシックス株式会社）
【英訳名】	Oisix.daichi Inc. （旧英訳名 Oisix Inc.）
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 高島 宏平
【本店の所在の場所】	東京都品川区東五反田一丁目13番12号
【電話番号】	03-5447-2688（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員管理本部本部長 山中 初
【最寄りの連絡場所】	東京都品川区東五反田一丁目13番12号
【電話番号】	03-5447-2688（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員管理本部本部長 山中 初
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

（注）平成29年6月20日開催の第20期定時株主総会の決議により、平成29年7月1日から会社名を上記のとおり変更いたしました。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第20期 第1四半期連結 累計期間	第21期 第1四半期連結 累計期間	第20期
会計期間	自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日	自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日	自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日
売上高 (千円)	5,379,819	9,602,199	23,016,775
経常利益 (千円)	179,452	156,254	778,049
親会社株主に帰属する四半期（当 期）純利益 (千円)	119,923	72,731	515,226
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	118,593	72,641	515,305
純資産額 (千円)	4,007,211	9,245,654	9,147,778
総資産額 (千円)	6,938,793	15,338,729	15,051,170
1株当たり四半期（当期）純利益 金額 (円)	20.47	9.10	87.47
潜在株式調整後1株当たり四半期 （当期）純利益金額 (円)	19.54	8.88	83.74
自己資本比率 (%)	57.7	60.3	60.8

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前連結会計年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

吸収合併契約の締結

当社は、平成29年5月25日開催の取締役会において、平成29年10月1日を効力発生日として、当社完全子会社である株式会社大地を守る会を吸収合併することを決議し、同日付で吸収合併契約を締結しました。

なお、当該吸収合併契約は、平成29年6月20日開催の第20期定時株主総会において承認可決されております。

(1) 合併の目的

経営資源の効率化及びグループ経営力の結集を目的として本合併を行うものであります。

(2) 合併の方法

当社を吸収合併存続会社、株式会社大地を守る会を吸収合併消滅会社とする吸収合併によります。

(3) 合併期日（効力発生日）

平成29年10月1日（予定）

(4) 合併に際して交付する金銭等

当社は株式会社大地を守る会の全株式を所有しているため、株式会社大地を守る会の株主に対して株式の割当てその他一切の金銭を交付いたしません。

(5) 吸収合併存続会社となる会社の概要

企業名称	オイシックスドット大地株式会社
資本金の額	943,034千円（平成29年6月末時点）
事業の内容	主にインターネットを通じた食品・食材等の販売

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当第1四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の景気対策などの効果もあり緩やかな景気回復基調で推移したものの、個人消費におきましては、依然として先行きが不透明であり、お客様の選別の目が一段と厳しくなってきております。

近年のEC業界においては、スマートフォンの一層の普及やSNS等を活用した販売経路の多様化が進む中で、共働き世帯の増加や健康志向の上昇など、ライフスタイル・価値観の変化に伴う消費者ニーズも多様化しております。また、当社の主たる事業領域である安全性に配慮した食品業界においては、安心・安全に対する消費者の意識が引き続き高い状況にあります。

このような環境の中、当社は、平成29年3月31日を効力発生日とした株式交換により株式会社大地を守る会を子会社化しております。当社グループでは、成長市場である食品EC市場において、既存サービスであるO i s i xと、同社のサービスである大地宅配の両ブランドの独自性・競争優位性の確立に取り組んでまいりました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は9,602,199千円（前年同期比78.5%増）となりました。利益面では、営業利益は141,569千円（前年同期比16.7%減）、経常利益は156,254千円（前年同期比12.9%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は72,731千円（前年同期比39.4%減）となりました。

なお、株式会社大地を守る会の子会社化に伴い、当第1四半期連結累計期間より、同社及び同社の子会社である株式会社フルーツバスケットの四半期損益計算書を四半期連結損益計算書に含めております。

各セグメントの業績につきましては、次のとおりであります。なお、当社グループは前連結会計年度末よりセグメント情報を記載しておりますので、前年同四半期との比較分析は行っておりません。

①宅配事業（O i s i x）

インターネットを通じて主に食品・食材の直販を行う宅配事業（O i s i x）においては、定期宅配サービス「おいしくすくらぶ」会員数が、前連結会計年度末（平成29年3月末）の137,359人から、当第1四半期連結会計期間末（平成29年6月末）には147,474人へ増加しており、概ね計画通りに推移しております。

平成25年7月より開始した、ワーキング・マザーなど忙しい女性の方向けに、安心・安全な献立が20分で完成するプレミアム時短サービス「KitOisix」を毎週お届けする定期宅配コース「KitOisix献立コース」の会員が、平成29年6月には5.5万人を突破しております。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	5,790,437千円
セグメント利益	674,645千円

②宅配事業（大地宅配）

カタログやインターネットを通じて主に食品・食材の直販を行う宅配事業（大地宅配）においては、新規会員獲得のための販売促進費を抑制し、サービスの進化に注力したこともあり、会員数が、前連結会計年度末（平成29年3月末）の46,145人から、当第1四半期連結会計期間末（平成29年6月末）には44,848人へ減少しておりますが、販売単価の上昇などの要因もあり、概ね計画通りに推移しております。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	2,790,464千円
セグメント利益	452,048千円

③その他事業

ソリューション事業においては、当社が保有するアセット・ノウハウを活用した三温度帯（冷凍・冷蔵・常温）の物流機能等を提供するサービスや、当社の宅配事業のノウハウを生かしたEC実行支援サービスを展開しており、引き続き新規クライアントの開拓に注力しております。

店舗事業においては、中規模店として平成26年1月にオープンした「Oisix CRAZY for VEGGY アトレ吉祥寺店」を平成29年9月に閉店する予定であります。同店においては、コンセプト型店舗としてのプロモーション効果など所期の目的を達したことから、今後は、新たな業態の店舗開発や、他社が運営する実店舗型スーパーにOisix専用コーナーを設ける「Shop in Shop」の取り組みに引き続き注力していく予定となっております。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	1,109,458千円
セグメント利益	178,145千円

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比較して287,559千円増加し、15,338,729千円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末と比較して13,567千円増加し、10,701,409千円となりました。これは主に、売掛金の増加134,429千円、未収入金の増加100,496千円、商品及び製品の増加24,593千円、原材料及び貯蔵品の増加10,846千円、その他の増加18,063千円、現金及び預金の減少269,316千円によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末と比較して273,992千円増加し、4,637,320千円となりました。これは、有形固定資産の減少22,042千円、無形固定資産の減少62,288千円、投資その他の資産の増加358,323千円によるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末と比較して189,683千円増加し、6,093,075千円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末と比較して206,786千円増加し、5,540,346千円となりました。これは主に、買掛金の増加155,966千円、資産除去債務の増加44,231千円によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末と比較して17,103千円減少し、552,728千円となりました。これは主に、長期借入金の増加13,497千円、資産除去債務の減少33,662千円によるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末と比較して97,876千円増加し、9,245,654千円となりました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益72,731千円によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数 (株)
普通株式	17,852,800
計	17,852,800

②【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数 (株) (平成29年6月30日)	提出日現在発行数 (株) (平成29年8月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	8,013,289	8,013,289	東京証券取引所 (マザーズ)	単元株式数 100株
計	8,013,289	8,013,289	—	—

(注) 「提出日現在発行数」には、平成29年8月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額 (千円)	資本準備金残 高 (千円)
平成29年4月1日～ 平成29年6月30日 (注)	75,300	8,013,289	13,086	943,034	13,083	4,823,758

(注) 新株予約権の権利行使による増加であります。

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成29年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

①【発行済株式】

平成29年6月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	—	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 7,888,100	78,881	—
単元未満株式	普通株式 49,889	—	—
発行済株式総数	7,937,989	—	—
総株主の議決権	—	78,881	—

②【自己株式等】

平成29年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数（株）	他人名義所有 株式数（株）	所有株式数の 合計（株）	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合（%）
—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—

2 【役員】の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,247,897	4,978,580
売掛金	3,124,366	3,258,795
商品及び製品	699,964	724,557
仕掛品	7,657	9,694
原材料及び貯蔵品	83,408	94,255
未収入金	1,354,023	1,454,519
その他	288,105	306,169
貸倒引当金	△117,580	△125,165
流動資産合計	10,687,842	10,701,409
固定資産		
有形固定資産	785,210	763,167
無形固定資産		
のれん	1,842,319	1,776,148
その他	793,230	797,112
無形固定資産合計	2,635,549	2,573,261
投資その他の資産	942,568	1,300,891
固定資産合計	4,363,328	4,637,320
資産合計	15,051,170	15,338,729
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,632,567	2,788,533
1年内返済予定の長期借入金	6,012	6,012
未払金	1,925,973	1,927,343
未払法人税等	198,804	116,299
賞与引当金	69,876	106,836
ポイント引当金	100,922	118,787
店舗閉鎖損失引当金	10,125	—
資産除去債務	46,819	91,050
その他	342,459	385,483
流動負債合計	5,333,560	5,540,346
固定負債		
長期借入金	47,308	60,805
役員退職慰労引当金	2,100	2,400
退職給付に係る負債	18,809	19,619
資産除去債務	106,172	72,509
その他	395,441	397,394
固定負債合計	569,832	552,728
負債合計	5,903,392	6,093,075
純資産の部		
株主資本		
資本金	929,948	943,034
資本剰余金	4,944,329	4,957,413
利益剰余金	3,272,882	3,345,613
自己株式	—	△935
株主資本合計	9,147,160	9,245,125
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△835	△868
その他の包括利益累計額合計	△835	△868
非支配株主持分	1,453	1,397
純資産合計	9,147,778	9,245,654
負債純資産合計	15,051,170	15,338,729

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	※ 5,379,819	※ 9,602,199
売上原価	2,763,958	5,163,324
売上総利益	2,615,861	4,438,875
販売費及び一般管理費	2,445,969	4,297,306
営業利益	169,891	141,569
営業外収益		
受取利息	4	41
受取配当金	4,230	4,447
受取補償金	1,285	1,593
持分法による投資利益	1,309	1,681
その他	3,566	12,865
営業外収益合計	10,395	20,628
営業外費用		
支払利息	5	85
株式交付費	356	351
為替差損	463	631
その他	8	4,876
営業外費用合計	834	5,943
経常利益	179,452	156,254
税金等調整前四半期純利益	179,452	156,254
法人税、住民税及び事業税	48,492	94,512
法人税等調整額	11,035	△10,934
法人税等合計	59,528	83,578
四半期純利益	119,923	72,675
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	-	△55
親会社株主に帰属する四半期純利益	119,923	72,731

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)
四半期純利益	119,923	72,675
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△1,330	△33
その他の包括利益合計	△1,330	△33
四半期包括利益	118,593	72,641
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	118,593	72,697
非支配株主に係る四半期包括利益	-	△55

【注記事項】

(継続企業の前提に関連する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

重要な変更はありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

※ 売上高の季節的変動

前第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)

当社グループでは、11月から12月にかけての年末商戦期におせち料理等の販売を積極的に行うことなどから、通期の売上高に占める第3四半期連結会計期間の比重が高くなる傾向にあります。このため、第1四半期連結累計期間の売上高は相対的に低くなっております。

当第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

当社グループでは、11月から12月にかけての年末商戦期におせち料理等の販売を積極的に行うことなどから、通期の売上高に占める第3四半期連結会計期間の比重が高くなる傾向にあります。このため、第1四半期連結累計期間の売上高は相対的に低くなっております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
減価償却費	49,342千円	84,623千円
のれんの償却額	6,118	94,352

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)

当社グループの事業は消費者向けに主に食品の宅配を行うEC事業とその他事業から構成されておりますが、EC事業の売上高及び営業利益の金額は、全セグメントの売上高及び営業利益の金額の合計額に占める割合がいずれも90%を超えているため、EC事業以外の事業について重要性が乏しいことから、記載を省略しております。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	宅配事業 (Oisix)	宅配事業 (大地宅配)	計				
売上高							
外部顧客への売上高	5,790,437	2,790,464	8,580,901	1,021,298	9,602,199	-	9,602,199
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	88,160	88,160	△88,160	-
計	5,790,437	2,790,464	8,580,901	1,109,458	9,690,359	△88,160	9,602,199
セグメント利益	674,645	452,048	1,126,693	178,145	1,304,839	△1,163,270	141,569

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ソリューション事業・店舗事業・海外事業等を含んでおります。

2. 「調整額」のセグメント利益における主な内容は、固定人件費及び各事業セグメントに帰属しない一般管理費等の全社費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは、前第1四半期連結累計期間においては、EC事業以外の事業について重要性が乏しいことからセグメント情報の記載を省略しておりましたが、平成29年3月31日に株式会社大地を守る会の株式を取得し、株式会社大地を守る会及びその子会社を連結の範囲に含めたことにより、報告セグメント「宅配事業(大地宅配)」を追加し、前連結会計年度より、セグメント情報を開示しております。

また、「宅配事業(大地宅配)」セグメントの新設に伴い、従前の報告セグメントである「EC事業」については、「宅配事業(Oisix)」へ名称を変更しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	20円47銭	9円10銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	119,923	72,731
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	119,923	72,731
普通株式の期中平均株式数(株)	5,858,398	7,988,827
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	19円54銭	8円88銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	—	—
普通株式増加数(株)	278,395	75,300
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—	—

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年8月9日

オイシックスドット大地株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 武井雄次 ㊞

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 佐瀬剛 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているオイシックスドット大地株式会社（旧会社名 オイシックス株式会社）の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、オイシックスドット大地株式会社（旧会社名 オイシックス株式会社）及び連結子会社の平成29年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年8月14日
【会社名】	オイシックスドット大地株式会社 (旧会社名 オイシックス株式会社)
【英訳名】	Oisix. daichi Inc. (旧英訳名 Oisix Inc.)
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 高島 宏平
【最高財務責任者の役職氏名】	執行役員管理本部本部長 山中 初
【本店の所在の場所】	東京都品川区東五反田一丁目13番12号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

(注) 平成29年6月20日開催の第20期定時株主総会の決議により、平成29年7月1日から会社名を上記のとおり変更いたしました。

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役高島宏平及び執行役員管理本部本部長山中初は、当社の第21期第1四半期（自平成29年4月1日至平成29年6月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。